

# 中部信州帰化植物

浅川 富雄

T. Asakawa : Naturalized plants in Chushin District, Central Japan

昭和44年、筆者が「松本市周辺の帰化植物」として報じた100種(信濃生物会刊信濃路)のうちの新しい採集品は25種であったが、その翌年、7種を加え、さらに翌46年、長野県下で新しく31種を採集、翌47年には、10種を加えた。ここでは、前目録を再整理し、「中部信州の帰化植物」として、154種を報告する。

帰化植物として扱ったものは、江戸時代から後に渡来したものが主であるが、それ以前のものでも歴史時代に帰化したものと一般に信じられているもの、あるいは、栽培品として入って野化したとされているものは加えることとした。この目録は、筆者が実際に採集確認できたもののみをあげたものである。

以上の科別種数は次のようである。

|              |           |           |            |
|--------------|-----------|-----------|------------|
| ヤナギ科 1       | イラクサ科 1   | アカザ科 5    | タデ科 7      |
| ヒユ科 5        | ヤマゴボウ科 1  | ツルナ科 1    | ナデシコ科 6    |
| フウチョウウ科 1    | アブラナ科 9   | バラ科 1     | マメ科 11     |
| ニガキ科 1       | トウダイグサ科 2 | アオイ科 4    | スミレ科 1     |
| アカバナ科 2      | フジウツギ科 1  | ヒルガオ科 8   | ムラサキ科 2    |
| シソ科 2        | ナス科 4     | ゴマノハグサ科 4 | ノウゼンカズラ科 1 |
| オオバコ科 1      | オミナエシ科 1  | ウリ科 1     | キク科 35     |
| イネ科 33       | イグサ科 1    | アヤメ科 1    |            |
| 合 計 31科 154種 |           |           |            |

## 1. 原産地について

原産地の推定は、むずかしいことであるが、一応数えてみると、欧州が63種で最も多く、米大陸がこれに次いで42種、東亜21種で、およそこの3者の比は、3:2:1である。しかし、欧州のものも、直接渡ってきたかどうかは判断し難く、米国に帰化し、さらに二次的に日本に移ったものも多いと思われる。東亜原産のものは、大い古い時代の移入である。

帰化植物の動きが、文化の移動に伴うものと見るならば、このことはまさに、現代日本文化の経路

が欧米からの流れが主であることを、そのまま数的に反映している如く見えて興味深い。

なお、原産地を、気候区で分けると、熱帯・亜熱帯10%、他は暖・温帯系である。(この比率は日本全体では16%(73/469))

## 2. 分 布 状 況

### 1) 気候の許す限り広がり尽くしたもの

ムシトリナデシコ：中部信州の川原でこの花の見当らない川原はない。谷間にもかなり奥までである。  
エゾギンギン、アレチマツヨイグサ、ヒメジョオン、マメグンバイナズナ、カモガヤ：峠の頂上にも必ずある。

ビロードモウズイカ：群生はしないが盆地一円の外、谷合まで。

ヒメオドリコソウ、ホナガイヌビユ、ヒメスイバ、ヒメムカシヨモギ：主として畑。

オオアワガエリ：路辺の草地。

ナガハグサ：そのへりを被う。

クサイ：湿った路面を埋め、オオバコ群集に代る。

アメリカセンダングサ：水辺の勢力つよく、ほぼ平地を極めた。

ハリエンジュ：戦前からあった木本であるが、今は谷や山道に沿いまだ伐採地で標高1500mまで。

このほか、一旦広布して最近衰退の傾向にあるものに、オオマツヨイグサ、アレチノギク、ワスレナグサ、オランダガラシ等がある。

### 2) 現在勢力を拡張中のもの

路辺をなわばりとするもの：ホソアオゲイトウ、ヨウシュチョウセンアサガオ、ナガバギンギン、オニノゲシ、ヒロハウジノケグサ、ネズミムギ、クロコヌカグサ

川原を占拠するもの：オオオナモミ、イガオナモミ、ナギナタガヤ

休耕地をねらうもの：富養型のヒメムカシヨモギがアカザと並んで代表、オランダミミナグサ、コハコベはひそかにふえている、大形草本トゲデシヤ時代がやがて来るか。

水辺を伝うもの：シラゲガヤ、クワモドキ(オオブタクサ)(河岸湖岸沿いの採草の行なわれない所)

### 3) 以前からあって余りふえないもの

ホソバセンダングサ：戦前とあまり変らない。

バラモンジン、ムラサキウマゴヤシ、ブタクサ、グンバイナズナ、ヘラオオバコ：思ったほど伸びていない。

ダンドボロギク：空閑地を見つけて飛び廻っていて、定着場所はない。1年草の宿命である。

### 4) 同属で盛衰交代の見られるもの

ムカシヨモギ属：戦前、アレチノギク、ヒメムカシヨモギの栄えた頃から、漸くこれらが衰え、ヒメ

ジョオンが優勢となり、くまなく分布した。この頃は、いためつけられた草原に、ヘラバヒメジョオンが入っている。貧栄養植物の強みである。さらにこの1～2年、以前はなかったハルジョオンが至るところに姿を見せ、東筑波田村などで田畦一面に咲き競っているし、標高2,000mの美が原にも上っている。諏訪にも現われた。

ヒュ属：アオゲイトウとホソアオゲイトウの2者は、すでに東筑松本誌にも長野県植物目録（杉本順一）にも載っているが、従来この2者は余り区別されずに観察されていた。さらにアオビユの名ともからんで、混乱していたようである。アオビユはホナガイヌビユにもあてる名であるから注意が必要である。アオゲイトウは表日本の海岸地方でほとんどホソアオゲイトウに駆逐されたが、信州でもこの経過を辿っているかに見える。

ギンギン属：在来のギンギンが減った。これに代ったものはエゾノギンギン。この植物は最初の帰化地が北海道であるだけに冷温帯に適する。ナガバギンギンはいつ入ったか、まだ盆地全部にひろがっていない。諏訪にはない。アレチギンギンの名が当地方のどの目録にも載っているが、発見できない。気候的に不適應のよう。当目録からはずすこととする。

マツヨイグサ属：当地の目録には、メマツヨイグサとアレチマツヨイグサの両方の名をあげてある向きが多いが、これは同一種である。ここではアレチマツヨイグサの名に統一する。オオマツヨイグサは非常に減った。南安郡誌にはオオマツヨイグサはあげてあるが、この方はメマツヨイグサの名で附記の形で扱ってある。20年前の記事であるが当時如何にオオマツヨイグサが優勢であったかが知れる。今は至るところアレチマツヨイグサ。霧が峯では標高1,700mまで。

同属が烈しく競りあっているもの：

○ スズメノチャヒキ属が2～3年の間にこぞって侵入。在来のもは、スズメノチャヒキ、キツネガヤのみであったのに、まず、イヌムギが入り、ヒゲナガスズメノチャヒキ、ウマノチャヒキ昨年あたりから、ハトノチャヒキ、カラスノチャヒキ、イヌムギモドキと応接にいとまない。主に市街地周辺。

○ ヒルガオの一群：マルバアサガオ、マルバルコウは以前からあったが、昭和44年にセイヨウヒルガオが現われ、以後、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、ホシアサガオの外、オキナアサガオと大変な繁榮ぶり。長野、諏訪全く同じ状況をみせている。

しかし、この類は熱帯性の一年草であるから、相互の競り合いが至るところでおこるかは疑問

○ オナモミ属：オナモミがいつの間にか姿を消し、長野、松本等市街地から順に大型のオオオナモミ・イガオナモミが至るところに勢力を示しはじめた。この両者は似ているが、後者は、果包の長さが長く（2cm以上）、その表面に多くある刺に、毛状の突起が一ぱいあって光沢を欠く。河床や路辺に今後ふえそう。現在、松本盆地には前者が多いが、長野盆地では両者伯仲。

○ トゲヂシャ（アキノノゲシ属）の二型：松本盆地では、松本市街を中心に、すでにほぼ $\frac{2}{3}$ の草

田にひろがり、長野市街、松本市街附近では、休耕地に純群落も見られる。白馬山麓のような観光地には飛地繁殖をしている。

松本盆地のものは、筆者の調べた限り、ことごとく葉の切れ込みの浅い *Lactuca scariola* f. *integrifolia* の方である。ところが、岡谷を中心に諏訪盆地では、欠刻の深い *f. scariola* が多生し、湖水の南でも、湖水寄りの方には両者入り混っていて、順に南へ前者に代っているが、富士見方面（山梨県境）にはどちらもまだ無い。今後諏訪では、どちらが勝つか見もの。長野・上田方面にも2型をみとめるが前者が多い。なお、南安郡誌でヌモノゲンと仮称しているものはこれであるから、今から20余年前初めてこの地に姿を見せたものである。今や大繁茂の兆しがある。

○ イネ科植物は全体として路辺で交代し、トダシバなど戦前の種は一掃されたが、今後も目まぐるしく同属異属の交代が繰り返されるだろう。ここではイネ科の動きを見ることは控えて、当面昭和47年に爆発的に繁殖したものは、クロコヌカグサであることを指摘しておこう。

終りに当り、この調査に特にご指導を惜しまれなかった長田武正教授、標本を同定してくださった大井次三郎博士、また、何かとご教示とお世話をいただいた清水建美教授に対し、ここに感謝の意を表します。

#### 主 要 文 献

|                |               |
|----------------|---------------|
| 日本帰化植物図鑑（長田武正） | 美ガ原の植物（横内 斎）  |
| 帰化植物（久内清孝）     | 霧ヶ峰の植物（諏訪市）   |
| 南安曇郡誌          | 原色日本植物図鑑（保育社） |
| 東筑松本誌          | 霧ヶ峰の植物（本田、飛田） |
| 長野県植物目録（杉本順一）  | 牧野日本植物図鑑      |

## 目 録

昭和47年現在

原産地、日本への渡来時期、生活型、長野県下の分布状況の順に記載、植物の配列順は、新牧野植物図鑑による。

、 セイヨウハコヤナギ *Populus nigra* var. *italica*

欧 明治中頃街樹として 木本 広く野化、河床に芽生えやすい

、 カラムシ *Boehmeria nivea* subsp. *nivea*

中、印(暖温帯) 古代から繊維用移入 明治まで実用 野化品今は少ない

、 アリタソウ *Chenopodium ambrosioides* (var. *pubescens* ケアリタソウを含む)

熱米 大正13 1年生 戦後からあまりふえない、長野、松本等市街地附近

、 シロザ(シロアカザ) *C. album*

欧亜大陸 往時 1年生 休耕地など肥土に一時的に繁りやすい

、 アカザ *C. album* var. *centrorubrum*

欧亜大陸 往時 1年生 前者と混生

、 コアカザ *C. ficifolium*

欧亜大陸 往時 1年生 花期早く小形 シロザ、アカザほど多くない

、 ウラジロアカザ *C. glaucum* S46(岡谷)

欧亜大陸(暖.温) 棉化? 1年生 南部(岡谷)中部(松本)繁殖地の状況から棉化品と思われる

、 エゾノギンギン(ヒロハギンギン) *Rumex obtusifolius*

欧亜大陸 明治末まず北海道に 多年生 長野県には極めてふつう、南日本には少ない

、 ナガバギンギン *R. crispus* S44(松本)

欧 明治末 多年生、平坦地のみに、前者ほどふえていない、松本、長野(諏訪にない)

、 ヒメスイバ *R. acetosella*

欧 明治末 多年生 奥地、寒地まで極めてふつう

、 オオケタデ(ハブテコブラ) *Polygonum orientale*

中国 往時 1年生 時々人家附近で逸出

、 ツルドクダミ *P. multiflorum*

中国 1720薬用として 多年生 戦前から、山路にも少なくない

、 ソバカズラ *P. convolvulus*

欧、西亜 往時 1年生 同上

、 ハイミチヤナギ *P. aequale* S 4 4 松本 (日本帰化植物図鑑に初登載)

欧亜大陸 今まで気づかれず 1年生 松本の外、岡谷等にも見出す、路辺路地に急繁殖

、 アオゲイトウ *Amaranthus retroflexus* S 4 4 松本附近

熱米 北海道には明治、本州は大正 1年生 以前からあったが気づかれなかったもの

、 ホソアオゲイトウ *A. patulus* S 4 4

熱米 戦後 1年生 1968年頃まず松本市を中心にひろがったのに気付く

○ ムラサキアオゲイトウ *A. patulus* f. *erythrosta* S 4 4 松本

熱米 戦後 1年生 時々前者に混生

、 ホナガイヌビユ *A. viridis* S 4 4

熱米 大正末 1年生 畑地など、山間部にもあるところをみると移入は新しくない

○ シロビユ *A. albus* S 4 7 諏訪

北米、世界各地へ まず北海道 (1950以前) 1年生 日本にもわずかに散生、霧が峰 (1350m) で  
採集 (牧畜と関係?)

○ アメリカヤマゴボウ *Phytolacca americana* S 4 4 松本 つけひやまびう

北米 明治初 多年生 大形 多くないが所々に

、 クルマバザクロソウ *Mollugo verticillata*

熱米 江戸末 1年生 校庭の周囲など路地に、多くない、松本、ふえないだろう

○ サボンソウ *Saponaria officinalis*

欧 明初 薬用として 多年生 河畔などに逸出、松本、諏訪、長野等

、 オランダミミナグサ *Cerastium glomeratum*

欧 明治末 1年生 市街中心に盆地の  $\frac{2}{3}$  くらいに昭 4 7 ~ 4 8 に目ざましくのびた

、 ムシトリナデシコ *Silene armeria*

欧 江戸末 1 ~ 2 年生 盆地ばかりでなく周囲の谷にも入りこむ

○ ヒロハノマンテマ *S. alba* S 4 4 霧が峰

地中海 観賞品の逸出 2 ~ 多年生、雌雄異株 霧が峰の路辺に所々

、 コハコヘ *Stellaria media*

世界に広布 大正 11 (牧野富太郎氏気付く) 1年生 1955年頃から当地にも、現在ふえている

、 オオツメクサ *Spergula arvensis* var. *sativa* S 4 7 (諏訪)

欧 1 ~ 2 年生 八ヶ岳農場、白樺湖、霧が峰牧場

、 セイヨウフウチョウソウ *Cleome spinosa*

熱米 明治初 (1870) 観賞用 1年生 やぶ地にたまたま逸出 諏訪、松本

、 カキネガラシ *Sisymbrium officinale*

欧 大正初 1年生 15年以上前から松本市附近に、あまりふえない

、 ハタザオガラシ *S. altissimum* S46松本

欧米 亜西 大正 1年生 松本市郊外

、 グンバイナズナ *Thlaspi arvense*

欧 弘化頃 2年生 比較的早く入ったものであるがふえていない

、 マメグンバイナズナ *Lepidium virginicum*

北米 明治43 神戸 2年生 あまねく分布

○ ヒメアマナズナ *Camelina microcarpa* S46松本市外

欧 戦後 全国 奈良井川堤 多くない

○ ツノミナズナ *Chalisporea tenella* S46松本

欧亜大陸 ごく最近 1年生 全国にまだ多くない、東京、三重などに散発的

、 ハルザキヤマガラシ *Barbarea vulgaris* S46松本市外

欧 最近高冷地へ好んで 多年生 松本の外、岡谷、諏訪霧が峰高原年々ふえている

、 オランダガラシ *Nasturtium officinale*

欧 明3-4 溪流など 多年生 大正から昭和に大繁殖、今水悪化で衰退

、 セイヨウワサビ *Armoracia rusticana* S44松本

南露ウクライナ 香辛植物の栽培品逸出 多年生 松本盆地では栽培品が所々に逸出(特に東筑、塩尻市)

、 ニワナナカマド *Sorbaria kirilowii* S44松本

中国北 戦後 木本 松本で庭栽培が急にふえたのはS43年頃の逸出(河床)

、 ハリエンジュ *Robinia pseudo-acacia*

北米 明10頃 谷を伝って最も高所まで登った棉化木本、乗鞍麓(標高1,500m)まで

、 シナガワハギ *Melilotus suaveolens* S46 松本市郊外

東亜 江戸時代 2年生 まだ多くない

、 シロバナシナガワハギ *M. alba* S46

中亜(地中海一印) 弘化2 1-2年生 前者に混生、多くない

、 クロバナエンジュ *Amorpha fruticosa*

北米、メキシコ 大正初 低木 砂防樹として植えたものが河辺に逸出

、 ムラサキツメクサ *Trifolium pratense*

欧 明治維新頃 多年生 あまねく広布、いずこの時にもあり

、 シロツメクサ *T. repens*

欧、北阿 弘化3 多年生 前者よりも好湿性、踏地を占める 標高2,000mに及ぶ

、 タチオランダゲンゲ *T. hybridum*

欧、西亜 はじめ牧草として 多年生 散発的、松本、諏訪、牧野には多い

、 ゲンゲ *Astragalus sinicus*

中国 2年生 逸出するが余り長つゞきしない

、 コメツブウマゴヤシ *Medicago lupulina* S46岡谷

欧 江戸時代 1-2年生 霧ヶ峰 標高1500mにも見る 散発的

○ セイヨウミヤコグサ *Lotus corniculatus* S47諏訪霧が峰牧場

欧 まだ多くない 多年生

、 アメリカツノクサネム *Sesbania exaltata* S47諏訪

北中米 1953松山初見、まだ多くない 1年生 諏訪郡下諏訪で初採

、 ニワウルシ *Ailanthus altissima*

中国 明治10頃 落葉高木 松本盆地に少なくない、諏訪に少なく長野方面に多い

、 オオニシキソウ *Euphorbia maculata*

北米 明治36甲府で初採 1年生 畦間などの低草群落の要素になる

、 コニシキソウ *E. spina*

北米 明治20 1年生 草むらよりも路辺の踏地に適応

、 イチビ(キリアサ) *Abutilon theophrasti*

印度から中国をへて、往時栽品の野化 1年生 大形草本 時々荒地に見かけるが群生はない 諏訪、松本、長野

、 タチアオイ *Althaea rosea*

小亜、中国 往時栽品として 2年生 所々に逸出

、 ゼニアオイ *Malva sylvestris* var. *mauritiana*

欧 往時栽品として 2年生 同上

、 アメリカキンゴシカ *Sida spinosa* S46上田

熱帯より 1950以後散発的に 1年生 まだ上田(千曲川河床)の外見てない

、 シボリスミレ *Viola ulginosa* S44

? 戦後 栽(観賞用) 多年生 日かげでよく繁殖、松本、諏訪(天竜川域)

、 オオマツヨイグサ *Oenothera erythrosephala*

北米 明治初(1870頃) 2年生 昭30頃から急減今は山路や河沿いなどに僅か

、 アレチマツヨイグサ *O. parviflora*

北米 1940頃から注目された 2年生 前者を圧倒して路辺、川原至るところにふえた、ここ数十年の間に

、 フサフジウツギ *Buddleja davidii* S44

北米 低木 5~6年前から庭木として栽植多くなり河床などに逸出

マルバアサガオ *Ipomoea purpurea*

熱米 明治初 1年生 逸出

アメリカアサガオ *I. hederacea* S46 上田

北米 近年渡来 1年生 上田(千曲川河床)松本(奈良井川堤)諏訪(下諏訪砥川口)

マルバアメリカアサガオ *I. h. var. integruscula* S46 上田

北米 前者と同じころ 1年生 同前

マメアサガオ *I. lacunosa* S46 上田

北米 戦後渡来(穀物に混じて) 1年生 上田(千曲川河床)諏訪(下諏訪砥川口)

ホシアサガオ *I. triloba* S47 諏訪(下諏訪砥川口)

南米? 熱帯にもあり マメアサガオと一しょに 1年生

マルバルコウ *Quamoclit angulata*

熱米 戦後数年で野化 1年生 長野、松本、諏訪

ヒメヒルガオ *Convolvulus arvensis* S44 松本

欧 1966 久留米門司間鉄道に 多年生 松本(奈良井川堤)

オキナアサガオ *Jacquemontia tamnifolia* S46 上田

熱米 発見された県はまだ少ない 1年生 上田(千曲川河床)諏訪(下諏訪砥川口)

ワスレナグサ *Myosotis scorpioides*

欧亜 北海道、長野県中部 多年生 松本盆地で一頃水辺一面に咲いたが減少気味

ヒレハリソウ *Symphytum officinale* S44

欧 10年ほど前から薬用として 多年生 数年前栽培が流行しはじめ間もなく逸出

チョウセンアサガオ *Datura metel*

熱帯 江戸時代 1年生 大形草 少なくなった

ヨウシュチョウセンアサガオ *D. stramonium var. chalybea*

熱米 明治後薬用栽、逸出 1年生 数年来路辺、川沿いにふえた

オオセンナリ *Nicandra physalioides* S46 諏訪

南米 安政2 多年生 諏訪、松本、逸出、多くない

ワルナスビ *Solanum carolinense* S46 岡谷

北米 明治末千葉で、戦後ふえる 多年生 岡谷(天竜川沿い)松本郊外

ヒメオドリコソウ *Lamium purpureum*

欧 明治26 東京 2年生 特に松本盆地に多い、終戦直後松本市に見え現在盆地全円に

シマオドリコソウ(イタチソウ) *Galeopsis bifida* S46

東半球温帯 帰化説あり 1年生 採集地が霧が峰の牧場附近ゆえ帰化品と思われる

＼ キリ *Paulownia tomentosa*

朝鮮 栽品が昔野化 高木 山間の谷沿いなどに所々に見る

＼ オオイヌノフグリ *Veronica persica*

欧 明治17年頃までは稀 2年生 戦前から、今は山間地にも多い

＼ タチヌノクグリ *V. arvensis*

欧、阿、亜 明治17頃は東京にも稀 1-2年生 畑、あぜ道など

＼ ビロードモウズイカ *Verbascum thapsus*

欧 明治初、庭園栽品が野化 2年生 戦後間もなく松本附近に姿見せ、今は盆地の周囲の谷合まで

＼ キササゲ *Catalpa ovata*

中国 往時栽品が野化 高木、暖地性 キリと同じに谷沿いの路辺に見られる

＼ ノヂシヤ *Valerianella locusta* var. *olitoria*

欧 欧人サラダ用、野化 1-2年 川の土手などに、採食

＼ ヘラオオバコ *Plantago lanceolata*

欧、米、東亜 江戸末 多年生 戦後間もなく松本市の路辺に現われ、盆地にひろがる

＼ アレチウリ *Sicyos angulatus*

北米 1年生 つる草 諏訪湖辺、長野千曲川沿い大繁殖の兆

＼ トゲヂシヤ *Lactuca scariola* f. *integrifolia*

欧 1949まず北海道に 1-2年生 現在最優勢の帰化植物の一つ、松本附近には昭42頃から群生が見られるようになり今年は盆地の80%に及ぶ 松本盆地のものは丸葉型、岡谷から諏訪へかけては *F. scariola* 切れ葉型

＼ ハキダメギク *Galinsoga ciliata*

熱米 東京 大正から 1年生 目立たないが田畑や河床に

＼ クソニンジン *Artemisia annua*

中国 薬用として往時入った 1年生 稀

＼ ホソバセンダングサ *Bidens parviflora*

亜大陸 満鮮から戦類が運んだらしいと 1年生 戦前からあったが、ふえない

＼ センダングサ(キバナセンダングサ) *B. biternata*

東亜 濠 阿 史前帰化か 1年生 少ない

＼ アメリカセンダングサ *B. frondosa*

北米 昭3大阪に 1年生 現在あまねくひろがる たゞし標高1500mぐらいまで

＼ アレチノギク *Erigeron bonariensis*

南米 明治25 1-2年生 善光寺平にはやゝ多いが松本附近は稀、オオアレチノギクは下伊那

ヒメムカシヨモギ *E. canadensis*

北米 明治初年まず鉄道沿線に 2年生 肥土の新裸地に多生するが長くはつゞかない、常に新裸地へ

ハルジョオン *E. phyladelphicus* S44 松本

北米 大正、観賞用、野化、多年生 昭45にはぼつぼつ見かけ昭46には群生が見られるようになった 松本、諏訪

ヒメジョオン *E. annuus*

北米 明治維新ごろ 2年生 現在最優勢、霧が峰の標高1,700mまで 峠にも必ずあり

ヘラバヒメジョオン *E. strigosus* S44

北米 1940頃 2年生 やせ地につよく草原を犯すのはこの型のもの 霧が峰等山地に

ヤナギバヒメジョオン *E. pseudo-annuus* S44

北米? 2年生 *E. annuus*と *E. strigosus* の自然雑種だという(津山)がこの型のものは相当多い

ユウゼンギク *Aster novi-belgii* S46

北米 観賞用栽培が逸出、大正 多年生 この逸出が見られるようになったのは、この2~3年である

ブタクサ *Ambrosia artemisiae*

北米 明治13千葉県 1年生 松本盆地での繁殖はにぶく漸く奈良井川を西に渡る

オオブタクサ(クワモドキ) *A. trifida*

北米 1952清水港 1年生大形草本 千曲川筋にはおびたしく 諏訪湖畔にも多いが松本盆地には少ない

バラモンジン *Tragopogon porrifolius*

欧、北亜、嘉永、ムギナデシコとよんだ 2-多年生 戦後から松本附近のものはその北方に少しくふえた

ヒレアザミ *Carduus crispus*

欧、コーカサス、シベリア、東亜(温帯) 弘化 2年生 戦前から、現在至るところ

オニノゲシ *Sonchus asper*

欧 明治 戦後繁殖 1-2年生、群生はしないが平地ばかりでなくかなり奥地にもあり

カミツレモドキ *Anthemis cotula* S45 諏訪(霧が峰高原)

欧 明治 1年生 松本市外にも

イヌカミツレ *Matricaria inodora* S47 北安曇佐野坂峠

欧亜南部 1-2年生 道路ののり面にはじめて現われた、多数

オオオナモミ *Xanthium strumarium* var. *canadense* S45

北米 昭4(備中植物誌) 1年生大形草 松本盆地では松本市から順にひろがる 在来のおナモミはほとんどなくなる

イガオナモミ *X. italicum* S46 長野

北米?(南米、南欧にも) 1年生大形草 善光寺平では前者と伯仲、松本附近ではやゝ少ない

チョウセンシオン *Gymnaster koraiensis* S45 東筑

朝鮮 多年生 所々に逸出しはじめた

、セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale*

欧 明治37北海道、昭和初東京 多年生 終戦直後松本に現われ今山間の荒地にも

、アカミタンポポ *T. erythrocarpa*

欧 前種と前後して入ったか 多年生 昭22頃松本 前者と同様にひろがる

、ダンドボロギク *Erechtites hieracifolia*

北米 1933愛知県殺戸山に 1年生 戦後すぐ入り、今は山間の裸地にも、いつも放浪

オオアワダチソウ *Solidago serotina*

北米 栽品の逸出 多年生 ここ2-3年逸出急にふえる

、キクイモ *Helianthus tuberosus*

北米 江戸末 多年生 ごみ捨て場などに逸出

、ブタナ *Hypochoeris radicata* S46 諏訪霧が峰高原

欧 1933札幌 以後散発的 多年生 飯田から報ぜられた外中信には霧が峰以外にない

、ノボロギク *Senecio vulgaris*

欧 明治初 1-2年生 畑雑草で四季花をみる

、コスモス *Cosmos bipinnatus*

メキシコ 観賞用・逸出 1年生 ゴミ捨て場など

、オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata*

北米 戦前から栽 多年生 川ぞいなどに近年逸出

ミツバハ <sup>テ</sup>ハンゴンソウ *R. triloba* S46 諏訪(下諏訪砥川口)

? 最近 多年生 下諏訪砥川口には多生してふえている

フランスギク *Chrysanthemum leucanthemum*

欧 江戸末から観賞用 多年生 河床等に逸出少なくない

、キンケイギク *Coreopsis drummondii*

北米南 観賞用として 逸出 河畔等に時々逸出

、ナギナタガヤ *Festuca myuros*

西亜 北阿 1-2年生 いつの間にか盆地にひろがった 群生

、ヒロハウシノケグサ *F. elatior* S44

欧 シベリア 明治35頃より利用戦後多用 多年生 新道、切割等の土止めに多用、至るところの路辺に

、オオスズメガヤ(スズメガヤ) *Eragrostis megastachya* S44 松本市内

世界の熱帯 経過不明 1年生 松本盆地では新裸地に多生することがある、出穂時臭

、コスズメガヤ *E. poaeoides*

欧、亜 経過不明 1年生 前者よりもふつう

シヤ  
タレスズメガヤ *E. curvula* S44

北米 昭35頃から土止めに多用 多年生 切崖に多く利用、逸出も多い

セイバンモロコシ *Sorghum halepense* S44 松本

阿 昭18千葉県 多年生 初採は松本市(2か所)諏訪天竜沿いにも

シマズメノヒエ *Paspalum dilatatum* S44

南米 戦後間もなく暖地に 松本市田川沿い1か所のみ 亜熱帯性ゆえふえない

オオクサキビ *Panicum dichotomiflorum* S45 松本

北米 昭4千葉県 1年生 河床や広庭の周囲などにひそかにふえている 松本、長野、諏訪

マカラスムギ *Avena sativa* S45

? 江戸末頃移入、野生化した 2年生 畑道などに逸出

シラゲガヤ *Holcus lanatus*

欧(米国をへて) 多年生 特に松本盆地で水辺等にこゝ数年来爆発的にふえた、高地にもあり

シバムギ *Agropyron repens* S46 松本

地中海 北海道等北地に 多年生 松本(奈良井川堤その他)諏訪(霧が峰高原)

カモガヤ *Dactylis glomerata*

欧、亜 明治初 牧草として 多年生 すでにあまねく分布(霧が峰1,650mにも)

ネズミムギ *Lolium multiflorum*

欧亜大陸 明治より牧草、雑草化 1-2年生 終戦頃はすでにあった、現在山間部まで広布、芒がある

ホソムギ *L. perenne*

欧 多年生 最近はこれよりもネズミムギが多い、芒がない

ネズミホソムギ *L. hybridum*

欧 前2者の交配種で一般にはこの方が多いよう

イヌムギ *Bromus catharticus* S43

米大陸 明治初 多年生 松本では女鳥羽川流域に僅か、今西部及び南部へ 長野にも

ウマノチャヒキ *B. tectorum* S44

欧 1912横浜で 1-2年生

ヒゲナガスズメノチャヒキ *B. rigidis* S46 松本

オオスズメノチャヒキ

欧 昭和初 福岡 1-2年生 初見の翌年にはあちこちの河川沿いにひろがった(但し松本市内)

カラスノチャヒキ *B. secalinus* S47 南安

欧亜大陸 1916北海道で、次いで各地 1-2年生 南安豊稗川堤で初見

ハトノチャヒキ *B. molliformis* S47 諏訪

地中海 1952清水港 1-2年生 諏訪霧が峰牧舎あと(標高1,650m)

○イヌムギモドキ(長田, 新称) *B. breviaristatus* S47 諏訪

北米(西部又は南部) 最近 諏訪郡下諏訪和田峠附近で採集

、カナリークサヨシ *Phalaris canaliensis* S46 松本

欧 大正末、福岡など、小島の餌 1年生 松本市外浅間

、オオアワガエリ *Phleum pratensis*

欧 亜 戦前から、牧草、野化 多年生 戦前からあったが戦後路辺にふえた、高地にも

、オオスズメノテッポウ *Alopecurus pratensis* S46 松本

世界の温帯に広布 明治初牧草として輸入、野化 多年生 水田でなく草地に、松本市郊外

、オオカニツリ *Arrhenarherum elatius*

欧 明治初、牧草として入る 多年生 多くはないが分布はひろい

、コバンソウ *Briza maxima*

欧 明治 1年生 南安島々(梓川沿い)のものは同一状況でふえない、保護したい

、ナガハグサ *Poa pratensis*

欧 明治初、牧草として輸入、野化 多年生 道路沿いの踏地と草地の移行部を占領、あまねくひろがる  
霧が峰(1650m)美が原(2000m)にも

、ヌマイチゴツナギ *Poa palustris* S44

欧、北米など北半球温帯 多年生 松本市郊外水辺など

、コスカグサ *Agrostis alba*

北半球温帯広布 江戸末 多年生

、クロコスカグサ *A. nigra* S46

北半球温、亜寒帯 北海道等北地に繁殖 47年には平地にも高地にも爆発的にふえた、松本、諏訪

、ハイコスカグサ *A. stolonifera* S47 諏訪

北半球温帯北部に広布 多年生 諏訪八が岳農場、白樺湖、霧が峰高原

、ライムギ(クロムギ) *Secale cereale* S47 伊那

南欧、西南亜 明治初 余り多くない 1年生 伊那市天竜川堤にそって

、ヘルガヤ *Anthoxanthum odoratum* S44 松本

欧亜の北、阿北 明治初、牧草として入り、野化 多年生 松本市郊外、多くはない、牧草地(東筑三城牧  
場など)には見やすい

、クサイ *Juncus tenuis*

米 多年生 湿り気ある踏地はこの植物が独占する、霧が峰では標高1800mまで、美が原は山頂面2000m  
に多生

、キシノウエ *Iris pseudoacorus*

欧 明治30輸入、順に水辺に野化 多年生 水辺に少なくない